

環境目標の達成に向けた具体的な取組について【環境目標Ⅰ：低炭素な暮らしを实践するまち】

<概況>

■民生業務部門及び運輸部門におけるCO₂排出量を削減する必要がある

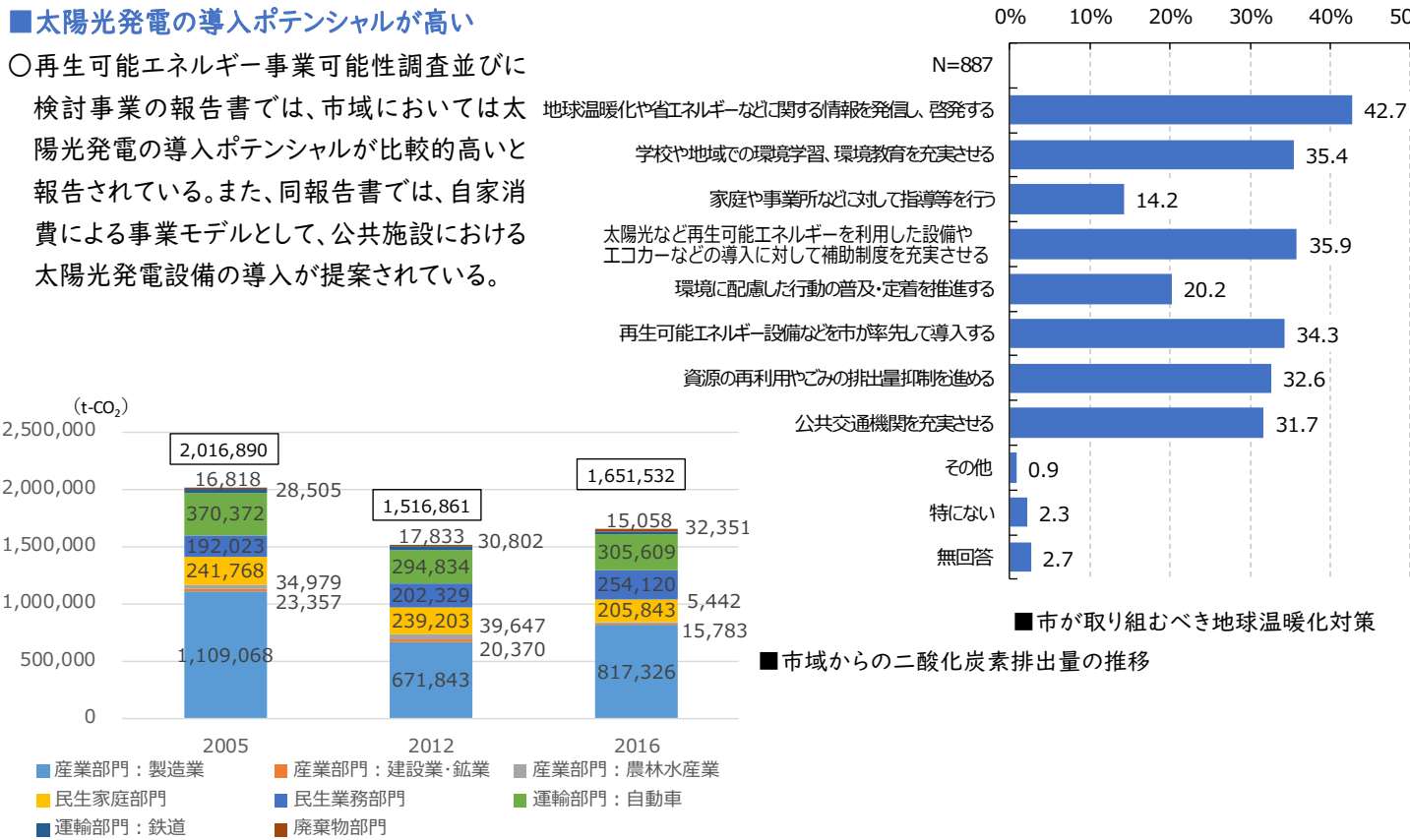
○2016年度の市域からのCO₂排出量は1,651,532t-CO₂であり、現行計画策定時(2005年度)からは365,358t-CO₂減少しているものの、見直し時(2012年度)からは134,671t-CO₂増加している。部門別にみると、民生家庭部門は減少傾向にあるものの、民生業務部門は増加傾向、運輸部門は下げ止まりとなっている。

■地球温暖化対策に関する情報提供、環境教育を充実させる必要がある

○アンケート調査の結果から、8割以上の市民が地球温暖化に関心があると回答している。市が取り組むべき施策としては、「地球温暖化や省エネルギーなどに関する情報を発信し、啓発する」が42.7%と最も高く、次いで「太陽光など再生可能エネルギーを利用した設備やエコカーなどの導入に対して補助制度を充実させる」が35.9%、「学校や地域での環境学習、環境教育」を充実させる」が35.4%となっている。

■太陽光発電の導入ポテンシャルが高い

○再生可能エネルギー事業可能性調査並びに検討事業の報告書では、市域においては太陽光発電の導入ポテンシャルが比較的高いと報告されている。また、同報告書では、自家消費による事業モデルとして、公共施設における太陽光発電設備の導入が提案されている。



<環境指標の達成状況>

環境目標	環境指標	当初値(2013年度)	目標値(2019年度)	現状値(2017年度)
①エネルギーを大切にしよう	豊川市地球温暖化対策実行計画区域施策編による市域からの温室効果ガス排出量	【全体】※1 1,516,861t-CO ₂ 【家庭部門】※1 239,203t-CO ₂	【全体】 1,448,551t-CO ₂ 【家庭部門】 217,698t-CO ₂	【全体】※2 1,651,532t-CO ₂ 【家庭部門】※2 205,843t-CO ₂
	太陽光発電システム設置基数	3,638基(累計) (28,600kW)	5,000基(累計) (35,000kW)	6,500基(累計) (73,500kW)
②車の使い方を考えよう	「公共交通機関の利便性」市民満足度	43.4%	50.0%	40.2%
	公用車における低公害車の割合	62.7%	80.0%	75.0%
③まちを涼しくしよう	街区公園の箇所数	85箇所	90箇所	88箇所※2

※1は2012年度、※2は2016年度の数値を使用しています。

○温室効果ガス排出量は、民生家庭部門では目標には達していないものの着実に減少しており、太陽光発電システムの設置も進んでいる。目標達成には民生業務部門及び運輸門での対策強化が重要である。運輸部門では、低燃費車等の普及を進めるとともに、エコドライブの推進や公共交通機関の利便性向上など、環境に配慮した移動手段・方法の普及を図る必要がある。

<取組の方向性>

■新たな温室効果ガス排出量の削減目標を設定する

○国の「地球温暖化対策計画」及び愛知県の「あいち地球温暖化防止戦略2030」を踏まえ、2013年度を基準年とし、2030年度を目標年度とする新たな温室効果ガス排出量の削減目標を設定する。

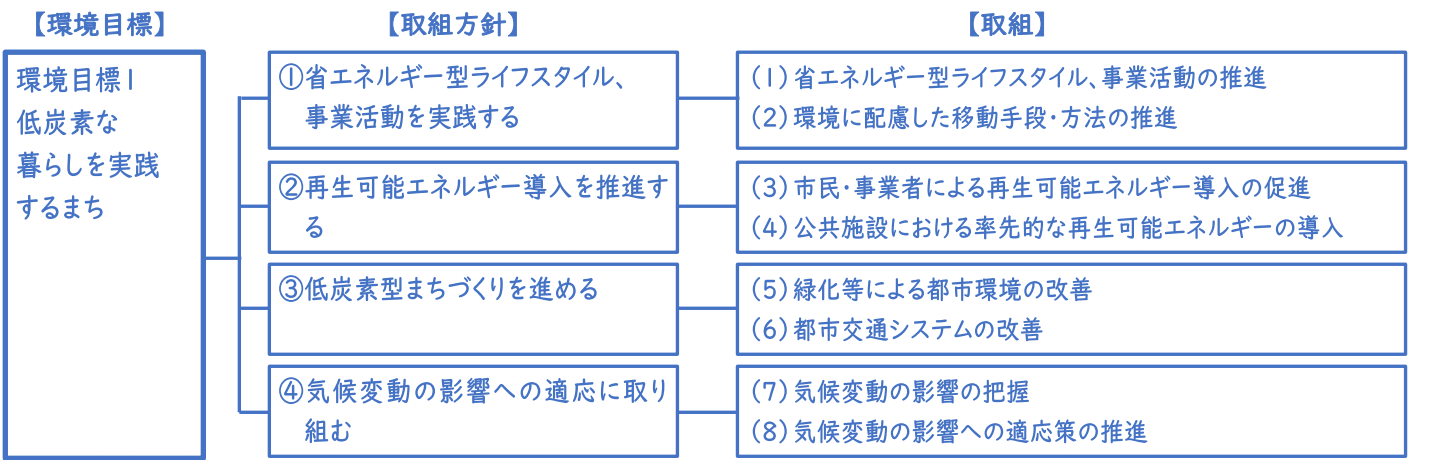
■地球温暖化の緩和策と気候変動の影響への適応策の両輪による地球温暖化対策を推進する

○地球温暖化対策推進法に基づく「豊川市地球温暖化対策実行計画(区域施策編)」と気候変動適応法に基づく「豊川市気候変動適応計画」を改定・策定、内包することとし、従来から取り組んでいる地球温暖化の緩和策に加え、気候変動の影響への適応策を明確に位置付ける。

■省エネルギー型ライフスタイル、事業活動の普及を促進する

○市民一人ひとり、個々の事業者の地球温暖化対策への意識を高め、行動を促すために、環境に配慮した移動手段・方法も含め、省エネルギー型ライフスタイル、事業活動の普及を促進する。

<取組の体系>



<具体的な取組>

①- (1) 省エネルギー型ライフスタイル、事業活動の推進

○公共施設における環境率先行動の推進 ○クールビズ・ウォームビズの推進 ○エコチャレンジ・カレンダーの実施 など

①- (2) 環境に配慮した移動手段・方法の推進

○公共交通機関の利用促進 ○公用車への低燃費車・電気自動車等の導入 ○エコドライブの推進 など

②- (3) 市民・事業者による再生可能エネルギー導入の促進

○住宅用太陽光発電システムの設置費補助の実施 ○遊休地を活用した太陽光発電システムの導入 など

②- (4) 公共施設における率先的な再生可能エネルギーの導入

○公共施設における太陽光発電の導入 ○清掃工場における廃棄物焼却による発電や廃熱利用(サーマルリサイクル)の実施 など

③- (5) 緑化等による都市環境の改善

○公共施設の緑化推進 ○緑地の保全と創出 ○緑のカーテンの普及・啓発等ヒートアイランド対策の推進 ○開発事業における緑地保全等の適切な指導 など

③- (6) 都市交通システムの改善

○バイパスや交差点改良等による渋滞緩和 ○自転車利用者に安全でやさしい道路の整備検討 ○自転車利用の啓発 など

④- (7) 気候変動の影響の把握、(8) 気候変動の影響への適応策の推進

○(現在調査中)

環境目標の達成に向けた具体的な取組について【環境目標2：豊かな自然と共存するまち】

<概況>

■豊かな自然環境がある

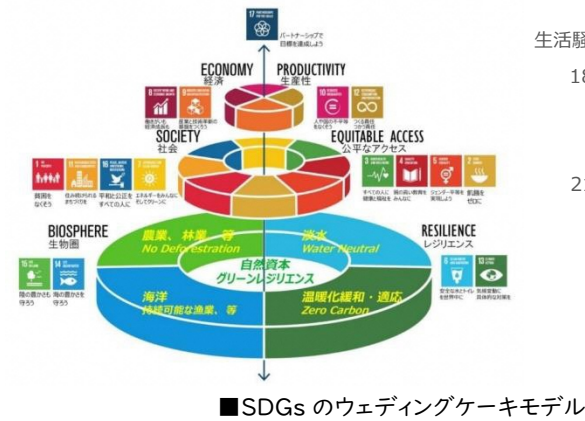
○市域の北側は本宮山、西側に宮地山などの山々が連なり、中央部から南に平野が広がり、東側は一級河川の豊川が流れ、南側は三河湾に面するなど、山、川、海といった豊かな自然環境から形成されている。

■持続可能な社会の形成には健全な生態系が必要である

○持続可能な開発目標（SDGs）において、目標 14 と 15 という生態系関連の 2 つに、目標 13 の気候変動、目標 6 の水関連の 2 つを加えた「生物圏」に関連する 4 つの目標が、その他の目標達成の基礎になるという考え方がある。

■市民の自然共生分野に対する関心が低い

○アンケート調査の結果から、「実行していない（関心がない、意識していない）」の回答割合が高い環境保全の取組として、「12 巨樹・古木の実態調査など、保護活動に参加している」が 74.9%、「7 森林の保全活動に参加している（林業体験学習など）」が 73.4%、「9 雨水貯留タンクを設置している」が 72.8%、「10 地域の野生動植物の保護に取り組んでいる」が 70.5%と、自然共生分野の取組状況が低くなっている。



<環境指標の達成状況>

環境目標	環境指標	当初値(2013 年度)	目標値(2019 年度)	現状値(2017 年度)
④いろいろな生き物の住む自然を守ろう	森林面積	5,856ha※1	現状維持	5,856ha※2
	河川の水生生物	豊 川：水質階級Ⅰ 佐奈川：水質階級Ⅱ 音羽川：水質階級Ⅰ	豊 川：水質階級Ⅰ 佐奈川：水質階級Ⅱ以上 音羽川：水質階級Ⅰ	豊 川：水質階級Ⅰ 佐奈川：水質階級Ⅱ 音羽川：水質階級Ⅰ
	「身近な自然環境調査」市民参加者数	675 名(累計)	1,500 名(累計)	1,415 名(累計)
⑤身近な自然を守ろう	「緑・自然の豊かさ」市民満足度	80.14%	82.0%	78.9%
	民有農地面積	3,794ha※1	3,750ha	3,702ha※3

※1は 2012 年度、※2は 2014 年度、※3は 2015 年度の数値を使用しています。

○森林面積や河川の水質・水生生物の生息環境は維持されている。自然環境調査への参加者数も、目標には達していないものの増加している。

○一方、身近な自然環境である農地面積は、農家・農業従事者の減少も相まって、減少傾向にある。「緑・自然の豊かさ」に関する満足度も微減しており、こうした環境の保全・活用も必要である。

<取組の方向性>

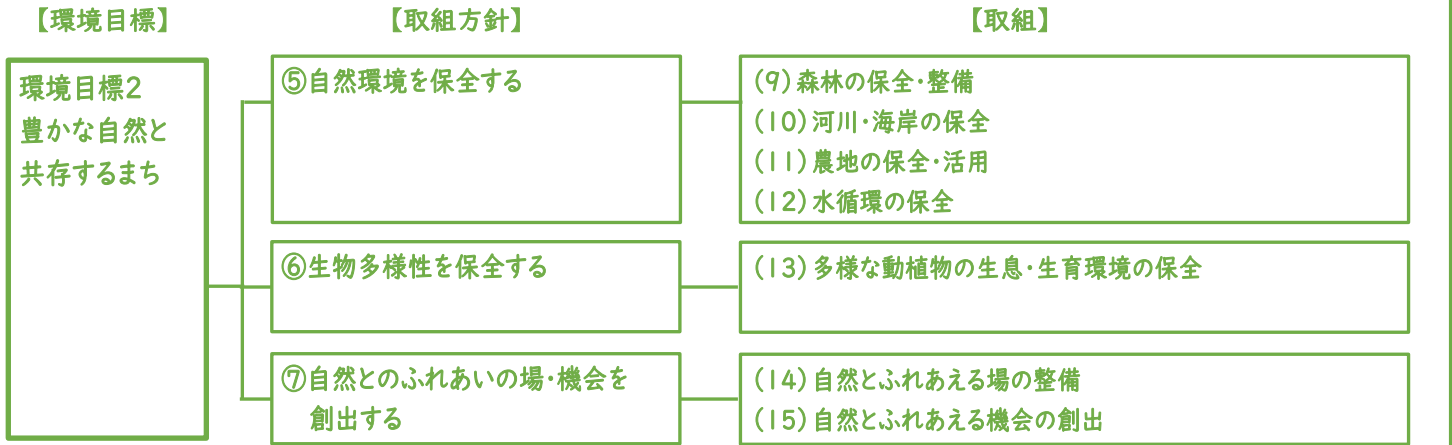
■持続可能な社会の基礎となる健全な生態系の形成（生物多様性の保全）を位置付ける

○SDGs が目指す持続可能な社会の基礎には、健全な生態系があり、これなしには持続可能な社会は実現できない。これを踏まえ、自然共生分野において、生物多様性の保全に関する取組方針を設定する。

■自然共生に対する意識を高めるため、自然とのふれあいの場・機会を創出する

○自然共生に対する意識を高め、環境保全（自然保全）の取組を率先して実行してもらうため、自然がもたらす恵みを体感してもらえよう、市民小菜園の開設も含め、豊川市の豊かな自然とふれあう場・機会を創出する。

<取組の体系>



<具体的な取組>

⑤-（9）森林の保全・整備

○保安林の適正管理 ○住民参加による里山保全の推進 ○森林の保全意識の啓発 ○FSC 森林認証制度により認定された商品等の購入啓発 など

⑤-（10）河川・海岸の保全

○河川・海岸の生物調査の実施 ○河川・海岸の一斉パトロールの実施 ○川と海のクリーン大作戦の実施 など

⑤-（11）農地の保全・活用

○市街化調整区域の農地の適正な保全 ○耕作放棄地の解消 ○就農塾などの農業研修を活用した農業従事者の人材育成 ○自然とふれあう市民小菜園の開設促進 など

⑤-（12）水循環の保全

○水源涵養林の保全・整備 ○野外センター利用による上下流域の交流促進 ○水の有効利用の啓発・支援 ○公共施設などにおける水の有効利用 など

⑥-（13）多様な動植物の生息・生育環境の保全

○貴重な自然環境の保全 ○有害鳥獣害対策の推進 ○外来種への適切な対応方法等の啓発 など

⑦-（14）自然とふれあえる場の整備

○自然とふれあう場の整備 ○水に親しめる場の整備 など

⑦-（15）自然とふれあえる機会の創出

○自然とふれあう活動の啓発・支援 など

環境目標の達成に向けた具体的な取組について【環境目標3:資源を大切にすまち】

<概況>

■市民1人1日当たりごみ排出量は県内市平均を上回っている

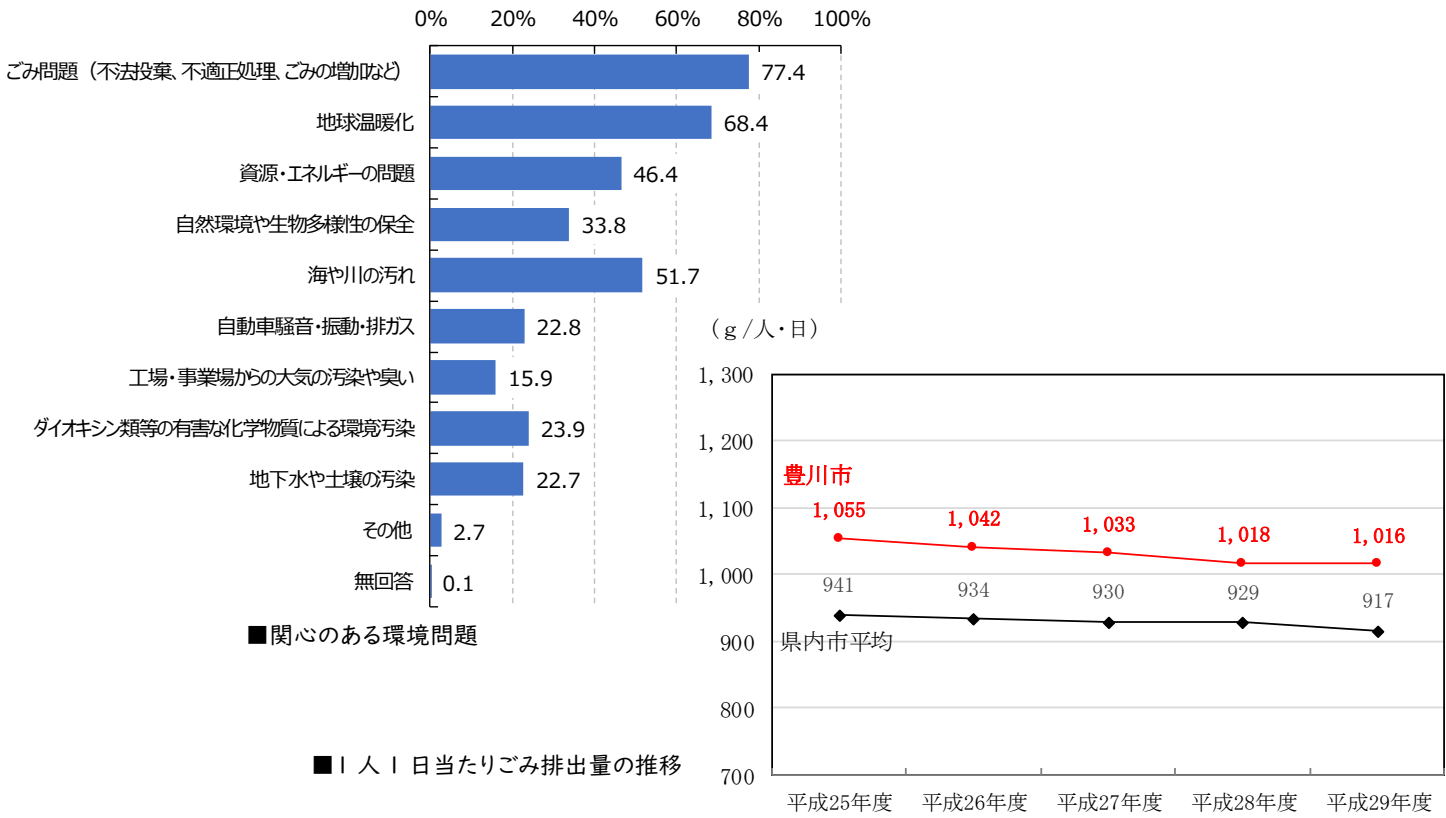
○家庭系ごみ排出量は、平成27年度から平成29年度にかけて減少していたが、平成30年度には増加している。事業系ごみ排出量は、平成27年度から平成29年度にかけて増加していたが、平成30年度には減少している。家庭系ごみと事業系ごみを合わせた1人1日当たりごみ排出量は減少傾向にあるものの、県内市平均を上回っている。

■市民のごみ問題への関心が高い

○アンケート調査の結果から、関心のある環境問題では、「ごみ問題（不法投棄、不適正処理、ごみの増加など）」が最も多く挙げられた。また、現在実行している環境保全の取組としてはごみの適正な排出やポイ捨てをしないとといった取組が圧倒的に高く、環境基本計画における環境目標でも「ごみを適正に処理しよう」の重要度が最も高くなっている。

■焼却施設の広域化への対応が必要である

○県のごみ焼却処理広域化計画を受け、「東三河ごみ焼却施設広域化計画」を策定している。市民が安心でき、安全で環境に配慮した適正な施設となるよう、東三河地域広域化ブロック構成市町村と連携を図りながら、広域化のあり方について検討する。



<環境指標の達成状況>

環境目標	環境指標	当初値(2013年度)	目標値(2019年度)	現状値(2017年度)
⑥ごみを減らして、リサイクルしよう	市民1人1日当たりごみ排出量(家庭系、事業系一般廃棄物)	1,056g	980g	1,016g
	上記のうち資源回収量	185g	330g	162g
⑦ごみをきちんと処理しよう	市民1人当たり年間ごみ処理費用	10,150円	9,400円	11,115円
	不法投棄年間件数	459件	300件	209件

○市民1人1日当たりごみ排出量は、減少傾向にあるものの目標には達しておらず、更なる取組の推進が必要である。また、そのうちの資源回収量も目標には達していないが、市民の生活スタイルの変化による雑誌、新聞の減少や容器の軽量化、薄肉化も関係していると考えられる。

○不法投棄年間件数も大きく減少しており、引き続き、市民・事業者の意識向上を図ることが重要である。

<取組の方向性>

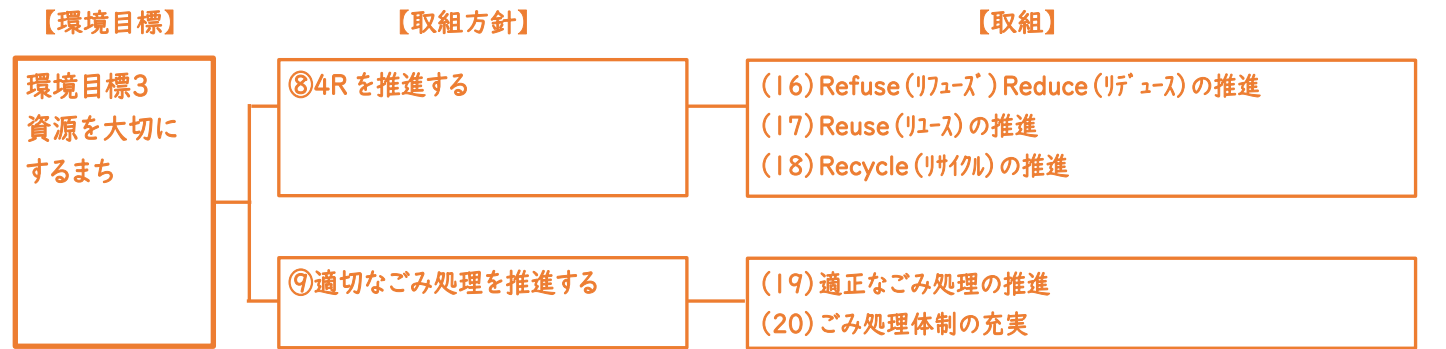
■3R(Reduce,Reuse,Recycle)+1R(Refuse)=4Rとした意欲的な取組を推進する

○豊川市では、一般的な3RにRefuseを加えた4Rの推進に取り組んでおり、今後も意欲的な取組を推進する。市民1人1日当たりごみ排出量は減少傾向にあるものの県内市平均を上回っており、更なる対策が必要である。ごみ排出量に大きなウェイトを占めている生ごみの削減について重点的に取り組む。

■計画的かつ戦略的なごみ処理体制の充実を図る

○処理機能を適切かつ経済的に維持するため、焼却施設の延命化を図っており、「東三河ごみ焼却施設広域化計画」も踏まえ、計画的かつ戦略的なごみ処理体制の充実を図る。

<取組の体系>



<具体的な取組>

⑧-①6 Refuse(リフーズ) Reduce(リデュース)の推進

- ごみ処理基本計画に基づくごみの発生抑制に関する施策の推進
- レジ袋などの使い捨てプラスチックごみの削減
- 生ごみひとしぼり運動の推進
- 4R推進の意義・必要性の啓発など
- 食品ロス削減の啓発・3010運動の普及啓発
- 生ごみ処理機等の購入費補助制度の実施 など

⑧-①7 Reuse(リユース)の推進

- 市民団体との協力によるフリーマーケットの開催
- 不用品交換情報誌「月刊クルクル」の内容充実によるリユースの促進
- 粗大ごみリユース推進事業によるリユースの促進 など

⑧-①8 Recycle(リサイクル)の推進

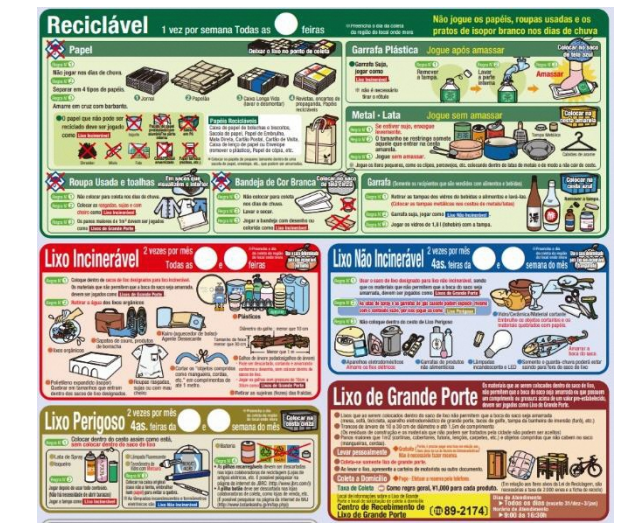
- 資源の分別回収の実施による再生利用の推進
- グリーン購入推進指針による再生利用製品の優先購入
- 事業者向けのリサイクル情報の提供
- 刈草・剪定枝の堆肥化・チップ化や廃食用油の回収制度 など

⑨-①9 適正なごみ処理の推進

- 高齢者、障がい者等へのごみ排出の支援
- 外国人への適切な分別方法の周知
- 事業者への適正な処理方法に関する指導・啓発
- ごみ処理施設の適正な維持管理の継続 など

⑨-②0 ごみ処理体制の充実

- 東三河ごみ焼却施設広域化に基づく施設統合に向けた問題解決 など



環境目標の達成に向けた具体的な取組について【環境目標4:安全で快適な生活環境のあるまち】

<概況>

■大気・水質・騒音をはじめとする環境基準は概ね達成している

○大気汚染では、光化学オキシダントを除く全ての物質で環境基準を満たしており、佐奈川・音羽川・豊川の水質、環境騒音も環境基準を満たしている。

■大気汚染(野焼き)に関する公害苦情件数が多い

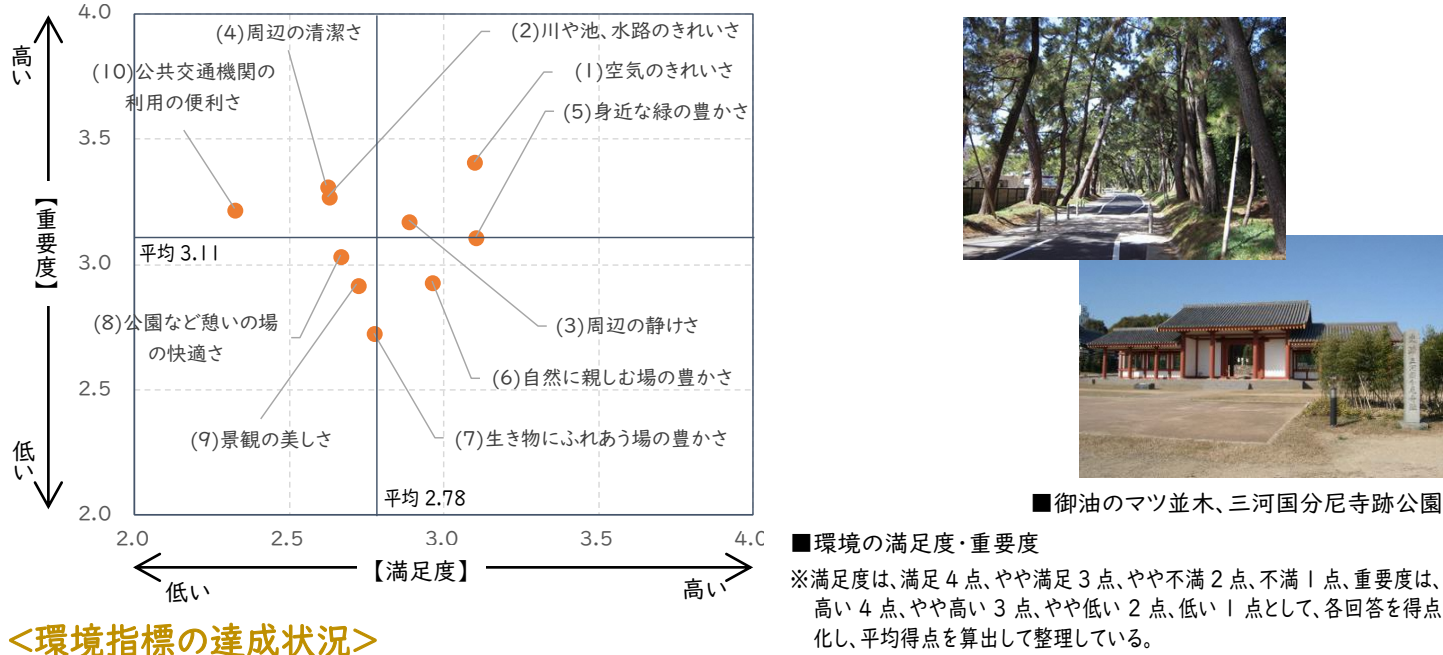
○公害苦情件数は年間およそ100件程度あり、大気汚染に関するものが多く、そのほとんどが野焼きに対する相談である。

■水辺のきれいさ／川や池、水路のきれいさ／周辺の清潔さの重要度が高い

○アンケート調査の環境の満足度・重要度を得点化し、平均得点を算出して整理した結果から、「空気のきれいさ」、「川や池、水路のきれいさ」、「周辺の清潔さ」といった生活環境に関する項目の重要度が高くなっている。特に、「川や池、水路のきれいさ」、「周辺の清潔さ」については、満足度も低くなっている。

■歴史的資源に恵まれている

○豊川市には、年間5百万人の参拝客が訪れる日本三大稲荷である豊川稲荷のほか、国の指定文化財として旧東海道の面影を残す御油のまつ並木をはじめ、三河国分寺跡、三河国分尼寺跡、三明寺の三重塔、財賀寺の仁王門、法住寺の木造千手観音立像、大恩寺の絹本著色玉宮曼荼羅図などがあり、多くの歴史的資源が保存されている。



<環境指標の達成状況>

環境目標	環境指標	当初値(2013年度)	目標値(2019年度)	現状値(2017年度)
⑧空・水・土を守り、健康な暮らしを保とう	環境基準(大気、騒音)	光化学オキシダント：未達成	全て達成	光化学オキシダント：未達成
		環境騒音：達成 新幹線騒音：未達成 自動車騒音：未達成		環境騒音：達成 新幹線騒音：達成 自動車騒音：未達成
	佐奈川、音羽川の水質(BOD75%値)	佐奈川(前川橋) 4.2mg/l 音羽川(南田橋) 1.0mg/l	佐奈川(前川橋) 2.5mg/l 音羽川(南田橋) 1.0mg/l	佐奈川(前川橋) 2.8mg/l 音羽川(南田橋) 0.9mg/l
	生活排水処理率	88.3%	97.0%	94.5%
⑨快適でゆとりある生活空間をつくろう	「公園の状況」市民満足度	56.3%	65.0%	54.9%
	「河川の状況」市民満足度	48.4%	60.0%	49.1%

○自動車騒音に関しては、国道1号線(新栄町3丁目)及び23号線(御津町下佐脇)で要請限度を超過している。

○公園や河川の状況に対する市民満足度を大きく高める目標を掲げていたものの、いずれも微減・微増となっている。

<取組の方向性>

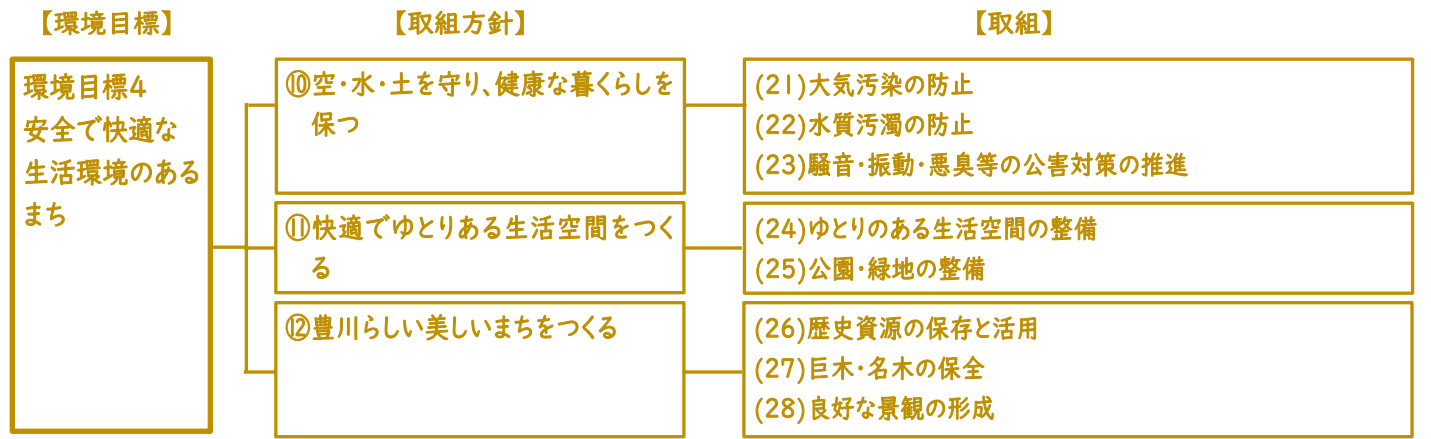
■環境政策を着実に推進する

○環境政策の出発点である市民の健康と生活環境を守るための施策については、現行計画から引き続き、着実な推進を図る。

■豊川らしい良好な景観を形成する

○公園・緑地の整備やユニバーサルデザインへの配慮など、ゆとりある生活空間の整備に取り組むだけでなく、歴史文化資源の保全や活用、田園や里山といった田園景観の保全など、豊川らしい良好な景観の形成に取り組む。

<取組の体系>



<具体的な取組>

⑩-(21) 大気汚染の防止

○大気や騒音・振動に関する調査及び結果の公表 ○大気汚染防止対策の推進 ○緑化の推進 など

⑩-(22) 水質汚濁の防止

○公共下水道の整備 ○生活排水対策の啓発・支援 ○合併処理浄化槽の普及・促進 ○その他水質浄化施策の推進
○水質の調査・監視 ○水質汚濁防止の指導 ○水質汚濁防止への助成 など

⑩-(23) 騒音・振動・悪臭等の公害対策の推進

○道路施設等の改善 ○土地利用の適正化 ○騒音・振動防止の指導 ○悪臭防止に向けた指導・啓発
○土壌汚染・地下水汚染防止に向けた指導・啓発 ○生活騒音の防止 ○施設改善への助成 ○悪臭防止への助成 など

⑪-(24) ゆとりのある生活空間の整備

○土地区画整理事業や宅地開発を通じたゆとりある生活空間の整備 など

⑪-(25) 公園・緑地の整備

○豊川市緑の基本計画に基づく公園緑地の整備 ○市民参加による公園の計画立案、利用促進 など

⑫-(26) 歴史資源の保存と活用

○歴史的遺産の保存と活用 ○歴史的遺産の保護の啓発・支援 ○伝統文化の継承への支援 ○文化施設の充実
○文化活動の支援 など

⑫-(27) 巨木・名木の保全

○巨木・名木の実態調査と保全 など

⑫-(28) 良好な景観の形成

○電線類地中化整備の推進 ○景観に関する市民意識の高揚 ○田畑や里山といった田園景観の保全 ○全市的な環境美化の取組 など

環境目標の達成に向けた具体的な取組について【環境目標5:みんなで環境保全に取り組むまち】

<概況>

■年間を通じて環境学習会等の啓発事業を開催している

○地球温暖化防止、生活排水対策、生物多様性を題材とした環境出前講座の開催や、小学生を対象としたエコ・チャレンジカレンダー、夏休み期間中のこども環境体験ツアーなど、環境学習会等の啓発事業を年間を通じて開催している。今後は、市民の関心の高いテーマ設定やターゲットを絞った開催などにより、より多くの人に参加してもらえるような工夫が必要である。

■「自分ごと」として考え、行動できる人を育てる必要がある

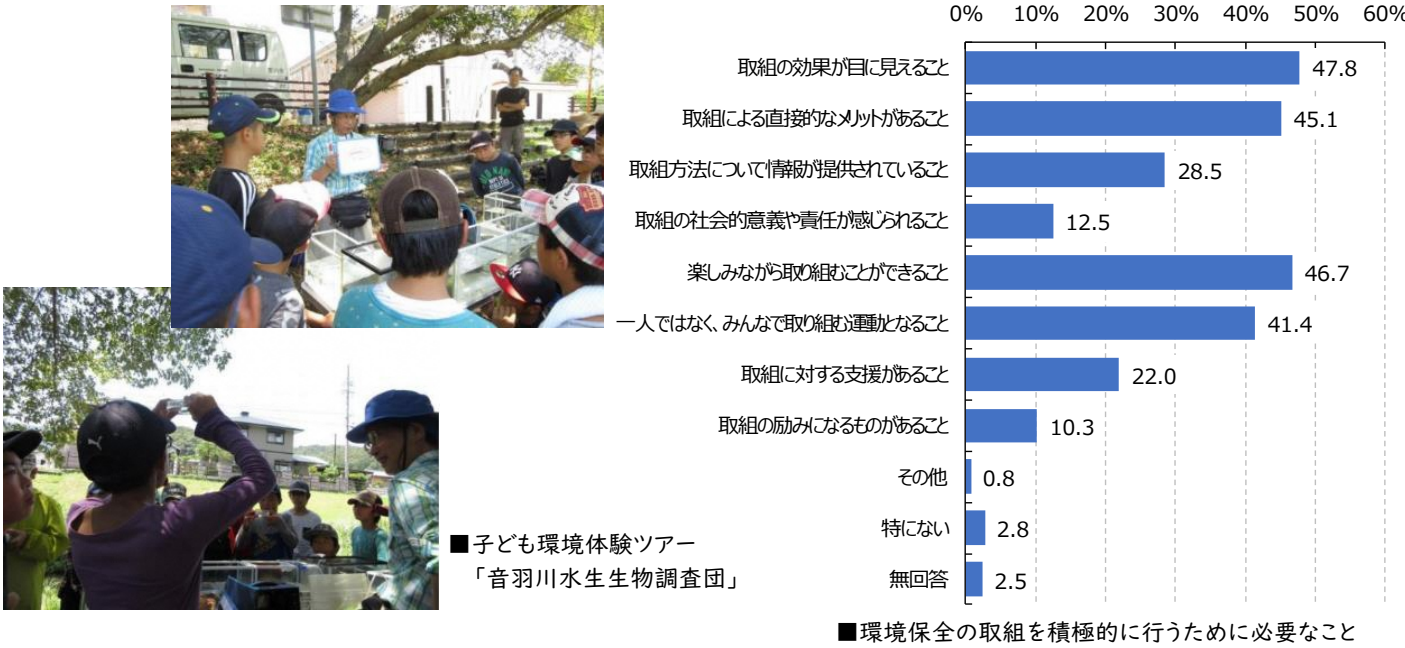
○持続可能な社会の実現を目指し、市民一人ひとり、個々の事業者が、今日の環境問題を「自分ごと」として捉え、分野や主体、世代を超えて、その解決に向けて主体的に行動できる人づくり・人の輪づくりを進めるため、ESD（持続可能な開発のための教育）の普及促進、環境教育の深化・充実を図る必要がある。

■楽しみながら取り組める、みんなで取り組める環境活動の普及が重要である

○市民等意識調査において、現在は実行していないものの、今後実行したいと回答した環境保全の取組として、自然とふれあう活動、環境教育・環境学習の活動、環境に関する取組の情報収集などがある。また、より積極的に行うために必要なこととして、楽しみながら取り組むこと、みんなで取り組むことという回答が多くなっている。

■「豊川市環境基本計画」の認知度が低い

○市民等意識調査において、豊川市環境基本計画について「知らない」という回答が市民で約 7 割、事業者で約 6 割という結果であった。市の取組だけでなく、市民や事業者の役割についても記載している計画の認知度を高めることは、意識や行動を転換していく上で非常に重要である。



<環境指標の達成状況>

環境目標	環境指標	当初値(2013 年度)	目標値(2019 年度)	現状値(2017 年度)
⑩ 豊川らしさを保ち、育もう	「地域の文化性の高さ」市民満足度	39.9%	50.0%	—
	アダプトプログラム登録団体	102 団体	150 団体	144 団体
⑪ みんなで考え、行動しよう	環境講座の年間参加者数	1,380 名	2,000 名	1,845 名
	「豊川市清掃の日」参加者数	55,659 名	60,000 名	55,801 名
	市ホームページ環境部局アクセス数	5,275 件/年	10,000 件/年	8,743 件/年

○いずれの環境指標も、当初値より増加はしているものの、目標値には達していない状況である。市民等意識調査の結果を踏まえ、楽しみながら取り組める、みんなで取り組める環境活動の普及や、豊川市環境基本計画に関する認知度向上に関する施策及び指標、目標値の設定が重要である。

<取組の方向性>

■環境教育・環境学習のさらなる充実を図る

○環境教育・環境学習の推進にあたっては、市民が関心を持って参加できる体験の機会の場を拡充するとともに、環境問題を「自分ごと」として捉え、環境にやさしい行動を主体的に実践できる人を育てる視点から、内容の充実を図る。

■楽しみながら取り組める、みんなで取り組める環境活動の普及を図る

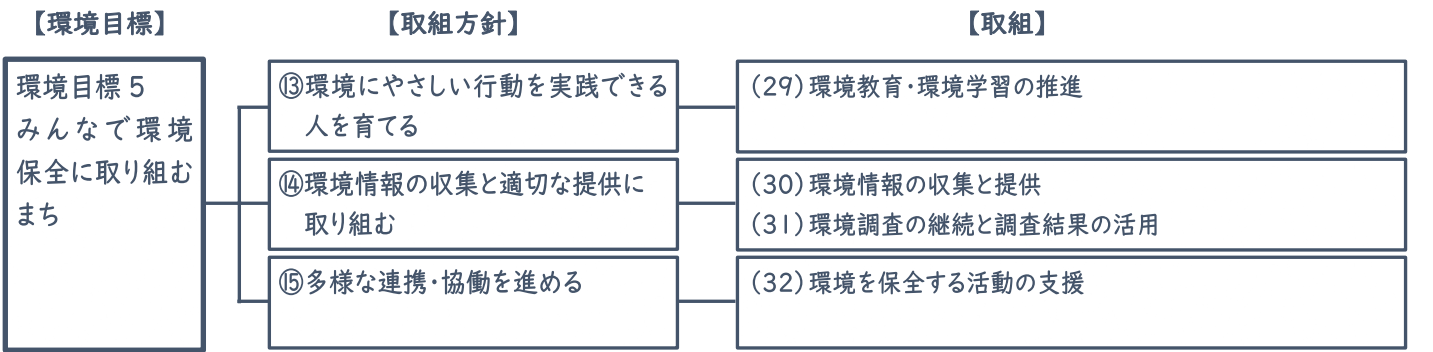
○先述のとおり、環境保全の取組をより積極的に行うためには、楽しみながら取り組むこと、みんなで取り組むことが重要である。市民・事業者にとって関心の高い環境情報の収集と効果的な提供を行うとともに、環境保全活動を支援し、多様な連携・協働につながるネットワークづくりを進める。

○また、積極的に活動を行っている個人・団体、企業等を表彰するなど、活動を広める仕組みづくりも重要である。

■環境に関する情報発信を充実する

○市民・事業者の意識を高め、環境に配慮した行動を促していくため、環境基本計画の内容も含め、環境に関する情報を広く発信していくことが重要である。

<取組の体系>



<具体的な取組>

⑬- (29) 環境教育・環境学習の推進

- 環境講座、環境イベントの内容充実
- 市民の環境イベントへの参加促進
- 環境学習リーダーの養成
- 野外センターや赤塚山公園の活用
- 環境に配慮した消費活動やライフスタイルを広める市民活動の推進 など

⑭- (30) 環境情報の収集と提供

- 環境情報の収集と市ホームページや広報による提供 など

⑭- (31) 環境調査の継続と調査結果の活用

- 環境調査結果や市が実施した環境保全の取組の年次報告書としてのとりまとめと公表 など

⑮- (32) 環境を保全する活動の支援

- NPO・ボランティア活動の支援
- 積極的に環境保全活動を行っている団体・事業所を表彰する制度の実施
- ISO14001 やエコアクション 21 など環境マネジメントシステムの導入に関する適切な情報提供
- エコビジネスの企業立地の促進 など

